



■中大の箱根駅伝

最近10年間の総合成績と
総合優勝校

2005	4位	駒	澤
2006	8位	亜細	亜
2007	8位	順天	堂
2008	7位	駒	澤
2009	10位	東	洋
2010	4位	東	洋
2011	6位	早稲	田
2012	8位	東	洋
2013	棄権	日本体育	
2014	15位	東	洋

報告会で浦田監督と選手たち

中大総合15位

東京箱根間駅伝



今秋予選会から巻き返す

第90回東京箱根間往復大学駅伝競走は1月2～3日に行われ、前年秋の予選会を突破して本戦に出場した中央大学は総合15位（往路17位、復路11位）に終わった。総合タイムは11時間18分43秒。10位までがシード権獲得校のため、次回は再び予選会（10月、立川市）からのスタートとなる。総合優勝は東洋大で往路、復路ともに制した。

復路を走り終えた中大選手らは、東京・大手町のゴール付近の公園で恒例の「報告会」に臨んだ。足立理事長、福原学長が激励と期待を込めたあいさつをした。浦田監督は「下級生にいい選手がいます」と復活を口にした。

報告会には中大ファンが大勢集まり、中大応援歌、中大校歌をともに歌った。

駅伝部は3日夜に大学HPを通じて、次ページのようなコメントを発信した。



中大の動向を気にするファンが大勢詰めかけた



『こんばんは。1月2日(木)・3日(金)に行われました第90回東京箱根間往復大学駅伝競走におきましては、たくさんのご声援誠にありがとうございました。遅くなってしまい大変申し訳ございません。結果をご報告させていただきます。

1区	新庄翔太 (法3)	1時間3分36秒	区間14位
2区	相場祐人 (経4)	1時間13分9秒	区間20位
3区	町澤大雅 (法1)	1時間5分48秒	区間16位
4区	三宅一輝 (法2)	56分35秒	区間13位
5区	小谷政宏 (経2)	1時間23分19秒	区間13位
6区	代田修平 (経4)	1時間1分15秒	区間16位
7区	徳永 照 (経2)	1時間4分42秒	区間 7位
8区	市田拓海 (法1)	1時間7分35秒	区間16位
9区	多田 要 (経3)	1時間10分41秒	区間 9位
10区	須河宏紀 (経4)	1時間12分 3 秒	区間15位
往路成績	5時間42分27秒	17位	
復路成績	5時間36分16秒	11位	
総合成績	11時間18分43秒	15位	

往路では、当初からのハイペースなレース展開についていくことができず、流れに乗れないままトップと15分14秒差の17位でのフィニッシュとなりました。

続く3日の復路では、繰り上げ一斉スタートから必死に前を追いかけて僅かに差を縮めたものの、シード権争いに名乗りを上げることはできず、総合15位でレースを終えることとなりました。

昨年のリベンジを果たすことができず、今年もまた予選会からの挑戦となりました。

この結果をチーム全体で受け止め、悔しいという気持ちをもち続けてこれから一年間精進して参りたいと思います。

最後まで復活を信じ、ご声援を送り続けて下さった皆様には、良い報告をすることができず非常に申し訳なく情けない気持ちでいっぱいです。

しかし、皆様の変わらぬご声援が、いつもとても選手の力となっています。

どうかこれからも、中央大学駅伝部に温かいご声援をよろしくお願い申し上げます。

中央大学駅伝部一同

学生記者 現場レポート

今こそ期待をかけ、精いっぱい応援する

文&写真 学生記者 石崎春日子(文学部2年)

本誌学生記者2人は、支援団体「中央大学箱根駅伝を強くする会」(会長=鈴木修スズキ会長兼社長)の絶大なる協力を得て、強くする会応援バスに同乗し、箱根駅伝取材した。取材記者は毎年、初参加の学生2人。初めてこの目で見た箱根駅伝を現場レポートした。



駅伝碑を中央にして学生記者、左から石崎、谷藤

1月2日朝7時、レース1時間前。東京・大手町に響き渡る太鼓の音とともに中央大学の応援が始まった。

チアリーディング部、プラスコー部、リーダー部の応援3部による応援団が集結し、力強い声援を送ると隣からは、中大に負けまいとする他校の応援も聞こえてくる。

各校は駅伝が始まる前からお祭り騒ぎである。箱根路までを往復する選手のみならず、多くの中大生がこ

の日のために努力してきたと思うと開始前から胸がいっぱいになった。

8時になると、いよいよ第90回東京箱根間駅伝の幕開けである。

いよいよと思っていたら、1区の新庄選手が、沿道最前列の私の目の前を過ぎるまで3秒もなかった。テレビで見ていると分からないが、選手たちのスピードは想像以上である。あっという間に行ってしまうと、「駅伝を強くする会」一行はゴール地点である



中大応援団が往路スタート付近で声援を送る

箱根・芦ノ湖畔へとバスで向かった。

この「強くする会」の皆さんは毎年、箱根駅伝の応援に来ており、10年～20年と応援している方たちが大勢いる。知識も豊富で、道中の会話では「5年前〇区を走ったのは誰だっけ?」「〇〇だよ」というような話をしてるのが印象的だった。

選手がやって来る1時間半前には芦ノ湖畔に着いたものの、沿道はすでに人で溢れ返っている。人のなかに人が埋もれてしまい、選手の走りを見ることができそうにないので、私はゴール地点の奥にある巨大スクリーンで中大のゴールを見届けることにした。

次々と各校の選手がゴールし、その度に空砲が響き渡る。中大はいつ来るのか、今か今かと待ちわびっていると小谷選手の姿が巨大スクリーンに映った。17位…。それでも、たすきが無事につながったことが何よりもうれしかった。前回は、この5区で途中棄権した。

翌3日は朝7時から芦ノ湖畔でスタートを待った。沿道には朝早くからたくさんの人が駆けつけ、中には中大マークの入った服を着たワンコまで。

復路がスタートし、主将である代田選手を見届けると、私たちはゴール地点近くの応援スペース、東京・日比谷へ向かった。日比谷で見た10区・須河選手は集団の中において順調に見えた。

結果、総合15位ではあったが、私にとって初めて生で見た箱根駅伝



箱根で会った中大犬、左足にCマーク

は忘れられない経験となった。選手たちの表情、沿道のお客さんの熱気…今後テレビで箱根駅伝を見るたび毎年思い出さそう。

この2日間、何度も中大駅伝部への注文や要望を耳にした。はじめは驚き、少し不快にも感じた。確かに成績は思うようにはいかなかったが、選手たちは精いっぱい頑張っており、それに対して私たちが口を出すべきではないのではないかと。しかし、その言葉の裏には期待が込められていることに気がついた。

沿道で聞いた強かったころの話。「強くする会」の皆さんも、昭和34年から始まった6連覇を見ている先輩が多い。V6はいまだ破られることのない偉業である。さらには1区から10区まで1位を守り続けた年もあったほど、圧倒的な力を誇っていたという。

中大は連続出場回数、優勝回数ともに最多であり、箱根駅伝において、伝統のある名門校なのである。このことは何度も多くの方々から教えていただいた。

伝統と実績に誇りを持っていて、今の中大駅伝部にも同じように期待をかけているからこそ、痛烈な意見が出てくるのだろう。

中大犬

2日目芦ノ湖畔の早朝、人もまばらな沿道には中央大学おなじみCのマークの入った服を着たビーグル犬がいた。飼い主とともに毎年応援に来ているそうで、ことで10回目になるという。市販の犬用の服に、自ら作ったCマークのワッペンを縫い付けした。応援団の太鼓の音が恐くて、鳴るたびに震えている姿が可愛らしくも頼もしい中央の応援犬であった。

私には中大が箱根駅伝に強いというイメージがなかった。強いチームと言ったら東洋や駒澤が浮かび、中大といえば入学前から毎年出場している大学くらいの印象だった。

だから総合15位でも、批判的に思わないのかと気づかされた。中大の結果にはあまり期待をしていない、ということである。

だが今回、「強くする会」の皆さんのおかげで、中大にもっと期待をしてもいいのではないかと考えた。皆さんは本気で中大に期待しており、その熱意は私の思いを変えた。

私たち世代の印象にはないかもしれないが、何といたっても中大は伝統のある名門校である。次回も予選会から始まる結果となってしまったが、来年の箱根駅伝が楽しみである。

中大に期待して、精いっぱい応援したいと思う。

一瞬にかける思い感じた駅伝

文&写真 学生記者 谷藤美佳(商学部2年)

2014年1月2日午前7時、応援が始まった。応援団は大きな声を出し、休むことなく選手たちを激励していた。

8時スタート。1区の新庄選手が走り去っていったのはほんの一瞬。1時間応援して、選手が目の前を一瞬で通り過ぎていったことに呆気にとられた。想像よりはるかに速いスピードだったのである。

人々は必死に応援し、通り過ぎていく選手は前だけを見ていた。前へ前へという気持ちが表情に感じられた。一瞬にかけるそれぞれの思いをひしひしと感じた。

1月3日6区。ウォーミングアップで走る代田選手が通る度に、人々の目は同じ動きをしていて、応援に熱が入った。自分たちのパワーを選手に与えているようであった。

スタートした代田選手は、そのパワーを感じながら進んでいただろうと思う。

1月3日復路ゴール付近で応援したときには走る選手の必死さが伝わってきた。1秒でも速くゴールするという執念が感じられた。その一瞬一瞬に目を離すことができなかつた。最後まであきらめない姿に胸をうたれた。

若い力を駅伝に

1月2日箱根で出会った、昭和44年卒業の中嶋尚士さん。箱根駅伝に対する思いを語ってくれた。「今ま



箱根へ向かう道路は大渋滞。バスから遊覧船に乗り換えてゴール付近へ向かった

ですずっとテレビで応援していた。子どもが成長し、時間に余裕ができた。やっぱり箱根は伝統があり別格である。これからは毎年見に行きたい」

多くの人たちで中大の応援場所は埋まった。世代を超えて一致団結して応援する姿は、箱根駅伝ならではのものだと思った。

駅伝は皆をひとつにするパワーを持っている。それでも若者の比率が低く感じた。もっと応援に来てほしい。若者に比べて年配の方は中大に強い誇りを持っている。それは、過去の駅伝の栄光を知っていることが大きな理由かもしれない。85回連続

出場、最多優勝14回など伝統がある。私も調べなければ知らないままでいたかもしれない。若い世代も、中大の一員として駅伝に興味を向けてほしいと思う。そして、応援に来て盛り立ててほしい。

総合結果は15位で、10位までのシード権が得られなかった。伝統校として、多くの方が注目し応援している。来年は上位に食い込むことを願う。



学生記者、左から谷藤、石崎

「中央大学箱根駅伝を強くする会」の応援メンバー・コメント集

▼須藤菊乃さん

「中大南甲倶楽部の事務員をやっており、会員の方たちが毎年応援に来ているので、私も今年で10回目になります。応援に来始めたころは3位が多く、成績も良かったので、最近は少し残念です。箱根以外にも選手激励会に行って直接選手にお会いするなど、いつも応援しています」(南甲倶楽部事務局)

▼松浦靖さん

「何回来たか忘れるくらい箱根駅伝の応援に来ています。若い命のほとばしりが素晴らしくて、それが箱根駅伝の魅力だと思います。最近は選手を見ても覇気を感じられず、厳しさが欠如しているように思います。やはり勝負の世界だから勝たなければ。選手を応援している我々の熱気を感じてほしいです」(昭和43年商学部卒)

▼藤本幹子さん

「80歳の私も旗を持って応援しているのだから、選手たちには頑張ってもらいたい」(昭和32年経済学部卒、学生会副会長)

▼古井戸(こいど)寿郎さん

「大学も体制を整えることが重要。大学をあげてさらに意欲的に取り組んでほしい。そして連帯意識を持ち、ヨコとタテの関係を強化して、つながりを強くしていくことが今後の課題である」(昭和40年法文学部卒業)

※取材では多くの方々にお世話になりました。

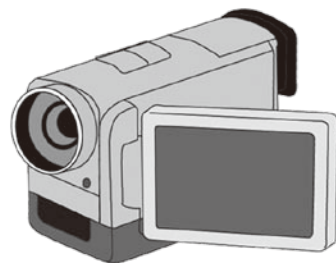
ありがとうございました。



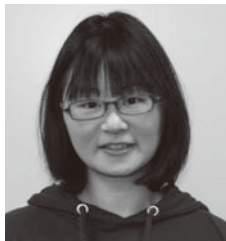
復路沿道で応援する中大ファン、白い旗、白いウェアで白門をアビール

座談会 中央大学放送研究会

箱根駅伝を撮る こちら全10区間に学生配置



学内の生協、Cスクエアなど各大型ビジョンに「東京箱根間駅伝」のニュースフィルムが流れた。制作したのは中大放送研究会(略称CHK)。1月2~3日、東京箱根間往復大学駅伝・全10区間に撮影スタッフを派遣し、中大選手の一挙手一投足を追った。取材現場へ行った放送研1~3年生による座談会はエピソード満載だった。



岩川彩夏さん

大手町、復路「報告会」の撮影、
インタビュー
(東京・大手町)
文学部3年



中濱 優さん

戸塚中継所
撮影とインタビュー
(横浜市戸塚区)
文学部1年



遠藤宏樹さん

芦ノ湖畔、往路「報告会」撮影、
インタビュー
(神奈川県箱根町)
総合政策学部2年



——活動内容を 聞かせてください

岩川さん「2日朝。往路スタート地点の東京・大手町にいました。選手は読売新聞社横の道路から走り始め、すぐに左折します。

私たちは選手を正面に見る沿道の一角にいて、ハンディカメラを構えていました。午前8時にスタート。選手

はアツと言う間に左折しますから、ここまでを撮って、次のスタッフへ任せます」

■ 駅伝選手は時速20kmのスピードで走る。400mトラックだと一般的に72秒ペースで周回する。

中濱さん「私は先輩と3人で2区から3区への戸塚中継所にいました。

スタッフの集合は午前7時半。夜明け前に家を出て、暗い道を駅へ急

ぎ、電車の車内でようやく日の出を見ました。

2区を走り抜けた相場選手を撮影して、その後にインタビュー。たすきを受けた3区を走る町澤選手もカメラで追います。

私は初めての箱根駅伝でした。大会前は“寒いから、いっぱい着込んで行け”とか、“選手は速いから走行中の車を撮影するように、ファインダーの中で選手に追いつけ”と

私のベストショット
中濱さん



戸塚中継所直前の市田選手。たすきを次に繋げようと、最後まで全力で走る姿が印象的で撮りました(中濱談)



最終コーナーを目前にしたシーン。たくさん声援を受け、往路ラストを走る小谷選手の力強さが伝わってきます。昨年度も芦ノ湖畔で取材したこともあり、たすきが最後まで繋がったことに感動!(遠藤談)

アドバイスされていました」

■日の出時刻 2日の東京、横浜とも午前6時51分だった。

待機5時間 手の感覚が…

——そのころ

箱根・芦ノ湖畔では

遠藤さん「立ち位置は箱根の往路ゴール前の交差点の手前です。テレビで見る最後のコーナー、選手が右折する場所です。

僕も朝早くに家を出て、始発電車に乗りました。午前8時半、箱根のゴール前撮影地点に到着。レースはまだ1区というのに、沿道はもう駅伝ファンの人でいっぱいです。

僕らのこの箱根駅伝プロジェクトを立ち上げたOBの方が、ありがたいことに撮影する場所を確保してくれま

した。でも、もう一つは沿道内の人の渋滞により、確保するのが遅れてしまい、カメラの位置が決まったのは9時ごろでした。

そこは風が冷たくて、日差しが当たらない。寒くて、寒くて、手足の感覚がなくなっていくようでした。正午ごろ、ようやく日が差し始めて、ほんと、ありがたかった。持ち場は離れられないのです」

■往路のフィニッシュは、優勝の東洋大が午後1時27分過ぎ。17位の中大は午後1時42分過ぎだった。遠藤さんは5時間ほど、その時を待っていた。

——撮影時間より、
選手を待っている
時間のほうが長いと
聞きました

遠藤さん「はい、そうです。移動時間も長いです。箱根駅伝のコース

はほぼ1本道でして、車は大渋滞。宿泊する御殿場へ行くのも、まず箱根を抜けるのに時間がかかり、結局、御殿場まで3時間ぐらいかかりました」

■箱根町の人口 1万3219人(2014年1月1日現在=箱根町HP)。1月の観光客総数は138万人で、2日午後から3日朝には人口が普段の数倍、数十倍に膨れ上がる。

中濱さん「待つことは確かに多いです。私たちが移動するのも電車です。待っていた電車は満員です。カメラの機材を持っていますから、ほかの乗客にすいません、すいません、と小さくなっていました。

インタビューは、走り終えた直後ではなく、しばらく経って、汗がひいたあとからではないとうまくいきません。

選手は準備ができたら、丁寧に答えてくれました」



新庄選手のウォーミングアップの様子を追っていたら、レース直前の緊張感が伝わる1枚になりました(岩川談)

夜明け前に

——前回の中大、往路は
5区で棄権しました。
今回はたすきをつなぎました

遠藤さん「前はゴール前でずっと待機していましたが、選手が来なかった。今回は山上りの小谷選手をしっかりと撮れました。

復路も頑張っほしいと、僕は3日の朝4時ごろ、御殿場のホテル近くの神社にお参りへ。夜明け前でした。街路灯もなく、足元が暗いので携帯電話の画面の明かりを頼りに、『シード権を取れますように』と手を合わせました」

岩川さん「知らなかった、その話」

——取材で楽しいことは

岩川さん「私は前回も大手町を担

当しました。復路ゴール前では日本テレビのスタッフがテストランをします。カメラリハーサルですね。

沿道からそのスタッフに『頑張れっ』て声がかかるのがおかしくて。私たちもカメラリハーサルでそのランナーを追うので助かっていますが…。

沿道には駅伝ファンが大勢います。中央大学の腕章を付けているとよく声をかけられます。『中大、どうなの?』『われわれのころは6連覇した』『僕らの時代は大東大が強かった』『あなたたちも頑張っ』なんて言われ、肩をポンと叩かれて。

箱根駅伝は幅広い層のファンに支えられているのだと実感します」

中濱さん「父が箱根駅伝のファンです。私も子供のころから見ました。入学して、放送研究会の新人生勧誘で箱根駅伝の取材があるのを知り、ひょっとしたら箱根へ行けるかと思っていました。」

沿道では車道に近い第1列に

立って、2区の相場選手、8区の市田選手を撮影しました。テレビ中継では沿道のことをあまり話題にしません。駅伝を見るにはやはり現場です。沿道には二重三重と人が詰め掛けています。すごい活気があって、2日続けて同じ人を見たり、話しかけられたり、駅伝はビッグイベントだとつくづく実感しました」

■生中継した日本テレビの視聴率 2日・26.8%、3日・27.0%。数字は前回より、わずかだがダウンした(ビデオリサーチ調べ)

遠藤さん「選手の息遣い分かるウォーミングアップにしても、緊張感が伝わってくる。テレビで見ていた箱根駅伝を実際にこの目で見て、いい体験をさせてもらいました。

沿道のファンと一体になります。『中大、今、何位だ?』と気になりますが、箱根の山は電波の受信状況がよくなくて、ワンセグはダメでした。Twitterでなら情報が取れました」

私も泣いちゃった

岩川さん「私たちは体を暖めるために大手町で1軒しか開いていないコンビニへ。おにぎりとおまん、あんまんを人数分買いました。レジのおばちゃんに『頑張ってるね』と励まされて。私たちが走るわけでもないのに、でも、うれしかったです。

昨年秋の予選会のことですが、順位発表のボード近くにおいて、本戦出場決定の瞬間を撮ろうと準備していました。三脚がないから、自分の手を固定した。なかなか中大の名前が呼ばれないので手が震えてきて、12位で中大と発表されたときは、私も中大生だからホッとして泣いちゃった」

■ごったがえす大手町 高層オフィスビルが立ち並ぶビジネスタウンも正月は静かな街となる。ビル内のコンビニの多くは営業せず、ビルも閉まっているから、トイレ

は地下鉄大手町駅の構内トイレを利用する。ここにも長い列ができる。

——そもそも放送研究会に入ったのは

中濱さん「高校時代に放送部において、校内放送などをしていました」

遠藤さん「小学校のころからテレビのドラマ、バラエティに興味があって。『笑う犬』や『ザ!鉄腕!DASH!!』を見ていました。学校では放送委員会に入っていました」

岩川さん「高校時代にラジオドラマをつくり、出演もしていました。撮影は大学に入ってから始めました。撮っているうちに楽しくなっていました」

中大放送研は、中継所全6カ所にカメラを2台ずつ配備した。合計12台のカメラがとらえた映像作品4本は好評のうちに終了した。朝早くに活

動し、活動終了後、“打ち上げ”の朝ごはんを食べに行く。放送研メンバーにとっても心に残る東京箱根間駅伝である。

■中大放送研究会・年間活動計画

4月	新歓活動・春の番組発表会
5月	新歓合宿・基礎ゼミ
6月	基礎ゼミ 10大学放送連盟合同番組発表会
7月	プチ番組発表会(内部向け)
8月	夏の番組発表会
9月	夏合宿
10月	DJ職人(内部向け)
11月	学祭・秋の番組発表会
12月	冬の番組発表会
1月	箱根駅伝撮影
2月	納会
3月	10大学放送連盟合同番組発表会 卒業コンパ

その他 週一の定例会・学びの回廊への参加
コミュニティFM3局でのラジオコーナー収録

中央大学放送研究会公式サイト

[HP]

<http://chkweb.web.fc2.com/>

[Twitter]

<https://twitter.com/CHKhoken>

HAKUMON Chuo

学内配布場所一覧



中大生が作る中大生のための情報誌『HAKUMON Chuo』は、各キャンパスの以下の場所で配布しています。

ぜひ手に取って読んでみてください。

- 多摩キャンパス
各学部・大学院事務室
学生部
図書館
グリーンテラス
キャリアセンター
学友会
国際センター
生協2階
入学センター
炎の塔
- 市ヶ谷キャンパス
ロースクール事務室
- 市ヶ谷田町キャンパス
総合インフォメーションカウンター
アカウンティングスクール事務室
- 駿河台記念館
駿河台記念館事務室
- 後楽園キャンパス
理工学部事務室
生協
ビジネススクール事務室

HAKUMON Chuo